

製本のススメ

Vol. 90

今年も節電の夏がきました。いまや電力がないとパソコンも動きませんし生活にも大きな支障がでますので、せっせと節約しています。当社内の入り口も消灯していますが、ちゃんと営業していますのでご安心ください。

今回も**ヘタクノな見積り依頼**の話し（その2）

「普通」や「一般的な物」と説明していませんか？あくまでもオリジナルを作るのが私たちの仕事ですので、エンドユーザーの『普通』がどの程度なのか、判断しにくいのが現状です。一昔前までは常識的というレベルが、意外に統一されていましたが、オリジナリティ溢れる現代では、基準点を何処に置けばよいのか判断できません。

特に 特装本は使う材料 加工方法等で**見積額が大きく変わる事があり**、概算見積りさえも出しにくいのです。

例えば 1m 単価 500 円の生地と 1000 円の生地では、同じメートル数でも金額は倍に変わり、100m も使えば単純に 5 万円の差がでますね。しかし、生地には風合いと言うものがあり、金額だけでは決められません。また機械作業と手作業では、大きく金額が変わりますので「普通」という基準が極めて難しいのです。

また**エンドユーザーが何を一番大切な基準としているのか、いち早く掴んでおくことも見積もり依頼には欠かせない要因です。**

例えば印刷の色合いなのか、製本仕上り後の梱包仕訳なのか 価格だけならグレードを下げれば良いのです。この線引きが上手く行えれば、かなり実費に近く絞り込んだ金額が出せる事でしょう。

同じ物なら安いほうが良いのは当たり前、お客さん達は概算と言いながらも、すでに品定めをしているはず。ならば ここは他社と違います！というアピールをしないと見積もりの気概がありませんね。井関製本は皆さんの営業活動を応援しています。



Tea break

時折 逆目使いの前回見本を参考に、昨年は出来ています！と言われる事があります。しかし、その見本は『**昨年の物**』**ここがポイント**紙は天然素材ですから、湿気と乾燥を繰り返しているうちに丁度良い所で落ち着きます。一年も経てば **たわみ** や **そり**も折合がつかますが、2~3 日では全く論外です。

また紙目は合っているのに、本の背に**たわみ**が出るのも、時間が解決してくれるのですが、短納期ではそうも行きません。これは紙の伸縮率の違いによるもので、用紙が違う 又は 同一用紙に違う加工条件が加えられるために起こる現象です。 このお話は、またいずれ・・・

by (株) 井関製本